新品種・新技術の確立 支援事業 取組概要 (H30~H31)

『グラジオラス「常陸はつこい」の抑制作型

における安定生産技術の確立』

=茨城県=

【全体概要】

本県はグラジオラスの主産地で、県育成オリジナル品種「常陸はつこい」は市場性の高い極早生品種である。5~6月出荷作型 の栽培には適しているが、高温に弱く生理障害が発生しやすいため、夏出荷には不向きである。今後品種の普及拡大を図るため、 10月以降の抑制作型における安定生産技術を確立する。

新品種・新技術等の概要

【品種特性】

- •H31年3月に登録となった県育成品種。サーモンピ ンクの大輪で、黄色のぼかしが入る。
- 露地季咲で75日、トンネル・マルチ促成栽培で120 日程度で開花する極早生品種である。
- ・促成栽培で、ピンク 色系の主力品種が出 荷される前の 5月から 出荷が可能であり、有 利販売が期待される。

トンネル・マルチ促成 栽培の様子





常陸はつこい

主な取組内容

10月以降出荷の抑制作型への品種適応性実証 【現地実証試験】

- ・設置場所:土浦市現地ほ場・定植:8月17日
- ・球根サイズ:2等級,3等級
- ・対照品種: ハンティングソング, ソフィー

【市場調査】実需者ニーズの把握

・調査市場:(株)大田花き •期日:10月30日



栽培マニュアル暫定版

【栽培マニュアル暫定版の作成】 県内生産者・関係機関へ情報提供

実施体制図

情報共有

実証ほ設置

県南農林事務所経営・普及部門

- 現地栽培試験ほの運営管理
- ・収量、品質等の調査
- ・現地試験検討会の開催
- 栽培マニュアルの作成

協力関係 情報共有

協力農家・JA

- 現地栽培試験ほの栽培管理
- ・収量・品質等のデータ記帳

園芸研究所

- ・現地栽培試験に係る助言
- ・課題への対応技術の開発
- 各種検討会への参画

農業総合センター専門技術指導員室

- 事業計画の作成・運営
- 各種検討会の開催
- 関係機関との調整



- 品質の評価・販売適性の評価
- ・実需者ニーズの提供

課題と今後の対応

【実証試験結果まとめ】

- ・8月中旬定植では10月下旬の開花となった。季咲作型と比べると、ボリュー ムがやや小さくなる傾向が見られた。
- ・6~7月に開花したものより花色が薄くなる点が懸念されたが、市場では問題 はないとの評価であった。出荷量の少なくなる11月以降の出荷が有利との意 見があった。
- ・球根サイズによる品質の差は認められなかったが、2等級では1球あたりの 出芽数が増え、作業性が悪くなるため、3等級の利用が良いと考えられた。

【今後の対応】

- ・現地実証試験を継続し、切花品質向上のため植付け条数を検討する。
- ・結果をとりまとめ経営試算を実施し、栽培マニュアルとして情報提供を行う。
- 県外産地調査や実需者との情報交換を実施する。